

特 定 事 業 者 排 出 量 削 減 計 画 書 （ 新 規 ）

| | | | | | | |
|------------------------|---|---------------------------------|--------------------------------------|-----------------|---------|---|
| 住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） | 京都市南区西九条北ノ内町5番地5 | | | | | |
| 氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） | 西日本旅客鉄道株式会社 執行役員京都支社長 大橋 幸之助 | | | | | |
| 特定事業者の主たる業種 | 鉄道事業 | | | | | |
| 該当する事業者要件 | <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号及び第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上／タクシー150台以上／鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上）） | | | | | |
| 計画期間 | 平成20年4月 ～ 平成23年3月 | | | | | |
| 基本方針 | JR西日本は、地球環境保護に取り組み、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。 | | | | | |
| 推進体制 | 地球環境委員会（委員長：鉄道本部長）及び支社地球環境委員会（委員長：支社長）を設置し推進する。 | | | | | |
| | 環境マネジメントシステム名称 | | | | | |
| | 適用範囲 | | | | | |
| | 取得年月日 | | | | | |
| 年度ごとの具体的な取組及び措置の計画 | 年度 | 設備、対象、工程等 | 計画内容 | | | |
| | 20 | 省エネルギー車両 | 24年度目標「省エネ車両比率75%」に向けた省エネルギー車両の継続的導入 | | | |
| | 21 | 省エネルギー車両 | 24年度目標「省エネ車両比率75%」に向けた省エネルギー車両の継続的導入 | | | |
| | 22 | 省エネルギー車両 | 24年度目標「省エネ車両比率75%」に向けた省エネルギー車両の継続的導入 | | | |
| 温室効果ガスの排出量等 | 排出区分 | 基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算） | 目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算） | 増減率 （計画） | | |
| | A 事業所等排出区分 | t | t | % | | |
| | B 輸送車両排出区分 | 1,508,957 t | 1,508,957 t | 0.0 % | | |
| | C その他排出区分 | t | t | % | | |
| | 排出合計 | 1,508,957 t | 1,508,957 t | 0.0 % | | |
| 目標設定の考え方 | 省エネ車両の導入等で、削減効果を見込め、増加要素として新駅増加、増発による回送列車の増加、気象条件などの不確定要素があるため、現状非悪化を当面の目標とする。 | | | | | |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等 | 用途区分 | 原単位の指標 | 基準年度（実績） | 目標年度（計画） | 増減率（計画） | |
| | 運輸 | 二酸化炭素換算 （輸送キロ） | 1.176 t-CO2/千キロ | 1.176 t-CO2/千キロ | 0.0 % | |
| | | 二酸化炭素換算 （ ） | | | % | |
| | | 二酸化炭素換算 （ ） | | | % | |
| 原単位の指標及び計画数値設定の考え方 | 省エネ法で、エネルギー消費量÷輸送キロ（車両・船舶走行キロ）と定められているので、分母を輸送キロとした。省エネ車両の導入で原単位当たりの削減を目指す。不確定な増加要素もあることから、現状では増減率0%とする。 | | | | | |
| 地球温暖化対策貢献量 | 対策等の区分 | 目標年度（計画） | | | | |
| | | 取組量等 | （二酸化炭素換算） | | | |
| | 森林の保全及び整備 | （整備面積） | ha | （吸収量） | | t |
| | 市内産の木材の利用 | （利用量） | m ³ | （削減量） | | t |
| | 自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給 | （発電量） | kwh | （削減量） | | t |
| | | （熱供給量） | GJ | （削減量） | | t |
| グリーン電力の購入 | （購入量） | kwh | （削減量） | t | | |
| 削減量等合計 | | | | t | | |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動 | | | | | | |
| 特記事項 | <ul style="list-style-type: none"> 変圧器等の取替え時、高効率型の採用を推進する。 省エネルギー型のエスカレーターやエレベーターの導入及び取替えを推進する。 信号機等のLED化を推進する。 | | | | | |

注1 該当する口には、レ印を記入してください。

2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。

4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（製造品出荷額、延床面積、走行距離等）を記入してください。

5 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。

6 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。